

別紙解答用紙に解答すること。

問 次の文章を読み、アスリートのキャリア形成と学業について考えるところを 800 字以上 1000 字以内で述べなさい。

【記事 1】

今季の関西学生アメリカンフットボールリーグ 3 部で、9 月 9 日土曜日の試合に「兵庫医大 1—0 大阪芸大」という記録がある。

大阪芸大の棄権だ。

「うちは土曜も夕方まで授業があるので」と、監督は説明する。去年までは主に日曜祝日に試合があり、土曜は 1、2 試合で、教員も学生も「それくらいなら」と授業を欠席した。それが、今季はリーグ側が競技場確保に苦心する中、全 5 試合が土曜になってしまった。

5 日分の授業全部を欠席はできない。交代で試合をしようにも、部員は約 20 人。初心者の 1 年生を出すと大けがにもつながる。やむなく 9 月の初戦と大事な実習が重なる 12 月の最終戦を棄権、残り 3 試合に万全を期すことにした。

50 年の部の歴史で初の棄権だそうだ。「かつては運動部の学生は練習や試合優先が当然だったが、今は違う。引退後のセカンドキャリアを考えれば、本当の意味で社会に通用する人間を育てないといけない」と、監督は決断の理由を話した。

競技と学業をどう両立させるか。これは特別な大学の、小さな部に限られた問題ではない。神宮球場が空く平日の開催が伝統となっている東都大学野球をはじめ、週末は競技場の借用料が高い事情などもあり、授業がある平日に設定されるリーグ、大会は少なくない。両立させたい学生は授業を受ける権利が奪われ、スポーツだけをしていればいいという学生は学業への意識がさらに遠のくことになる。

『朝日新聞』2017 年 10 月 14 日（一部省略、改変）

【記事 2】

僕にとっての勉強は中学から「やらなければいけないもの」でした。どうせ授業で座っていないといけないなら、その 6 時間はきっちりやると決め、家ではほとんど勉強しませんでした。

単純作業は嫌いで、解き方の工夫ができる数学が好きでした。教師になろうと、広島大に進むつもりでしたが、高校最後の大会をけがで中途半端に終え、サッカーを本気で続けたいと思いました。そこで、広島大と同水準の偏差値で、関東大学リーグ 1 部にいた東京学芸大の数学科を受験し、入学。専門色の強い数学の本質を理解するのは大変でしたが、22 歳以下日本代表に選ばれるなどサッカーで実績を上げながら、中高の数学教員免許をとりました。

多くの競技で、一流になるには身体的な伸びが止まる 20、30 代に、思考を伸ばさないといけません。そんな時、18 歳までに得られる知識、教養やスポーツだけでは見えないものが思考の幅を広げ、成長する方法を教えてください。その選択肢を最初から狭めてしまうのは、もったいないことです。

僕は数学的な論理的思考で、他の選手との違いを作れたと感じます。例えば、一つのプレーを振り返る時。「良い悪い」だけで捉えるのではなく、「なぜ、どのように起きたか」を把握することは、プレーの選択をするうえでとても重要です。

両立とは「好きなこと」と「やるべきこと」を両方やることだと考えています。将来の夢を定め、やりたいことに没頭するのはすばらしいけど、夢でないことでも、「日々の一生懸命」を増やしていく。そういうメンタリティーを子どもの頃から養うことが大切ではないでしょうか。

『朝日新聞』2019 年 7 月 7 日（一部省略、改変）

以上